

第3学年 社会科学習指導案

1 小単元名 昔の道具とくらしの変化

2 小単元について

本小単元は、大単元「かわってきた市の人々のくらし」の中の小単元であり、学習指導要領第3学年の内容(5)の「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」のア「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」を受けて設定されている。

3学年は社会科学習の入門期ともいえる学年である。児童は、まず地域学習として最初に学区探検を行い、学区探検マップを作ることで、身の回りの地域にあるものや働いている人に関心を持ってきた。次に、範囲を広げて千葉市について学習してきた。ポートタワーから市内を展望し、市内には学区周辺のような住宅街だけでなく、自然の多いところや工場地帯もあるなど、写真資料も使いながら土地利用の多様性について学んだ。そして、学区にある「マリンピア」を取り上げ、なぜ、多くの家庭が買い物に利用しているのかについて、店内の見学や店員へのインタビュー、来店客への聞き取りを通して、身近な商業施設の地域における役割やそこで働いている人の思いに触れてきた。

これまでの学習では、地図学習で学んだことを生かしながら調べたことを地図にまとめる活動を意識して行ってきた。学区探検で調べたことを地図にまとめたり、千葉市について調べたりしたことを「千葉市しょうかいマップ」に表す活動にはとても意欲的に取り組んでいた。スーパーマーケットの見学でも店内の様子を地図に表しながら売り場の工夫を考えてきた。しかし、調べたことを予想することや友達に伝えることについては、相対的に自信を持って取り組めていない児童が多い。普段の学習でも、机間指導をしながら考えを認める丸を付けてあげても、発表の時に挙手できない児童がおり、「自分が考えたこと(予想)が間違っていたらどうしよう。」という不安感を感じていたり、考えたことを「どのように話せば相手に伝わるのか。」という話し方のスキルが十分でないために不安を感じていたりするからだと考えられる。

本小単元では、昔のくらしの様子を当時使われていた道具と関連させて調べることを通して、地域の人々がより良い生活を願って様々な工夫や努力をして道具の変化とともに、暮らしの様子を変化させてきたことを考えられるようにすることをねらいとしている。今までの学習と異なり時間のスケールが新たに加わる。古くから残る暮らしにかかわる道具と、それらを使っていたころの暮らしの様子は、児童にとって知識にはあっても、全く馴染みのないものであるといえる。

そこで、本学習では、道具の体験について洗濯板や七輪などの道具を一斉に体験させて終わらせるのではなく、ほとんどの児童が知っている洗濯板の体験を皮切りに様々な道具に触れさせ、いくつかの道具については、実際に当時と同じように使う体験をさせながら、それぞれの道具には工夫があることを実感をもって理解させるようにする。また、調べたことを他の児童に伝え合う活動に取り組めるようにする。自分の体験したことを相手に伝えようとすることで児童は、道具について詳しく調べようという意欲を持ち、また、伝え合う活動を通して自分が調べたことを相手に聞いてもらう体験を通して、相手に自分の考えが受け入れられたという達成感を味わわせ、自分の考えや気持ちを表現することに対する自信につなげていきたい。

そして、昔から地域に住む人に道具の使い方や暮らしの様子を聞いたり「房総のむら」への校外学習で、昔の道具や暮らしの様子についてさらに調べたりしていく。最後には、調べたことを道具カードや年表にまとめていく。これらの学習を通して、人々の生活が道具の変化とともに、変化していったことや人々の生活への願いや知恵・工夫について考えられるようにしていく。

3 知識の構造図

中心概念

古くから残る、暮らしにかかわる道具には、昔の人々の知恵や工夫がこめられており、道具の変化とともに地域の暮らしも変化し、便利になってきた。⑩

まとめる

具体的知識



つかむ

調べる

4 小単元の目標

昔の道具やそれらを使っていたころの暮らしの様子について調べ、人々の生活の様子が道具とともに移り変わってきたことや、人々の暮らしの中の知恵や工夫、願いについて考える。

5 小単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
社会的事象への 関心・意欲・態度	昔の道具や人々の生活の変化に関心を持ち、意欲的に調べることを通して、人々の暮らしの中の知恵や工夫、願いについて考えようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	昔の道具や絵図などの資料から学習問題を見出して追求し、人々の生活の変化や人々の願いについて考え、適切に表現している。
観察・資料活用の 技能	昔の道具やそれらを使っていた頃の生活について、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。
社会的事象についての 知識・理解	人々の生活の変化がわかるとともに、その背景には暮らしの向上への人々の願いや努力があったことを理解している。

6 小単元の指導計画（10 時間扱い）

過程	時間	主な学習と内容
つ か む	1	○校内にある昔の道具（鉄瓶、羽釜、七輪、豆炭行火、みの、ぞうりなど）に触れたり、昔の暮らしの様子が描かれたイラストを見たりして、昔の暮らしの様子をつかむとともに、道具の移り変わりについて関心を持ち、調べようとする意欲をもつ。 ・昔の道具は、今あるものと形や使い方が違うな。 ・どんな暮らしをしていたのかな。 ・実際に道具を使ってみたいな。
	2	○洗濯板を使った洗濯体験から昔の道具に触れ、昔の道具とそれらを使っていた人々の暮らしの様子に関心をもつ。 ・きれいになったけど、大変だよ。 ・水が冷たい。 ・洗濯機のほうが簡単だよ。 ・洗濯板には、いろいろな工夫があるんだね。（溝に泡がたまる。溝の形など） ・他の道具も体験してみたい。
	3	○七輪を使って火起こし、もち焼の体験をし、昔の道具のよさと、七輪を使っていた人々の工夫や努力について考える。 ・なかなか火がつかなくて大変だ。 ・炭火で焼くとおいしく感じるよ。 ↓ ・他の道具にも工夫があるんじゃないかな。
	4	○昔の道具の変化から、昔の暮らしの様子について興味・関心を高め、学習問題を立てる。 道具のくふうによって、人々のくらしはどのようにかわってきたのだろう。

調 べ る	5	○昔の暮らしと現在の暮らしのイラストを再度見ながら、学習問題に対する予想を立てる。 ・道具がより使いやすくなり、暮らしが楽になった。 ・全自動になると、他のことをする時間ができる。 ・○○の道具は、～になったので、使う人は□□だ。 ○予想の内容をもとに下記の昔の道具を体験するグループに分け、道具調べの視点をもつ。 ・アイロン ・明かり（あんどん） ・かや
	6	○体験グループごとに、昔の道具を実際に使いながら、道具の名称や使い方、工夫されているところについて調べ、昔の発見カードにまとめる。 〈炭火アイロン〉・炭の熱を使っていたよ。 ・思ったよりきれいにしわがとれたよ。 ・コードが付いていないから動かすのは楽だったよ。 〈あんどん〉・ろうそくだけの時よりも明るいよ。 ・まわりのカバーがあるから、風で消えないね。 ・カバーに光が当たって、ろうそくだけの時よりも明るいよ。 〈かや〉・天井から吊って使うんだよ。 ・中は思ったより広がった。 ・蚊が入らないように網目が細かくなっているよ。
	7 (本時)	○他の体験グループと道具についての情報や使用した感想を交流し合い、昔の道具についての工夫や優れているところについて考える。 ・電気がなくても、便利に使える工夫があった。 ・どの道具にもそれぞれ工夫があった。
	8	○特設の道具博物館へ行き、グループで体験した以外の道具(大和分館から借用した道具)についても、同様に調べる。 ↓ 道具を使っていた頃のくらしの様子を知りたいな。
	9	○昔の道具を使っていた人に話を聞き、道具を使っていたころの暮らしの様子、道具についての知恵や工夫、使っていた時の気持ちについてまとめる。 ・子供の時の一日の過ごし方。お手伝い(水汲みやまきわりなど)を通して家族で過ごす時間が長かった。氷屋が近くにあってよく買いに行き、冷蔵庫に使った。 ・苦労はありながらも工夫して道具を使ってきた。
	配当外 (6)	○「房総のむら」に行き、実際に使われた農家や道具を見学し、また説明を聞くことで昔の生活への理解を深める。
ま と め る	10	○体験した道具の移り変わりを調べ、昔の道具カードを昔の道具年表に整理し、道具の移り変わりや生活の変化について知る。 ・働く時間が短くなった。 ・手作業から機械の道具に変わった。 ・電気を使った道具に変わった。 ・ほうきやうちわは、今でも使われているね。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">道具には、使う人のくらしをべんりにするいろいろな工夫があり、道具はくらしがべんりになるようにかわっていった。</div>

7 市教研社会科研究主題のための方策

変貌する未来を切り拓く社会科学習
～手応えの発見につながる『深い学び』の追求～

<本年度主題解明のための方策>

研究内容1 「深い学び」に導く単元づくり
研究内容2 「深い学び」に導く授業づくり

本小単元では、次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

研究内容1 「深い学び」に導く単元づくり

○学習意欲を高める導入の工夫

「つかむ」段階では、洗濯板を使って洗濯を体験する活動や七輪を使って食べ物を焼く活動を取り入れる。実際に今も残る昔の道具を使うことで、昔の人々の道具の使い方を知り、道具を使うときの大変さを知り、同時に道具に込められた知恵や工夫、生活への思いや願いについて共感的に理解することができる考える。

○一人一人が調べた道具を年表にまとめる工夫

「調べる」段階では、昔の道具について、体験をもとに発見カードにまとめていく。児童はそれぞれグループに分かれ、昔の道具を体験しながら手分けして調べまとめていく。グループごとに調べることで、明かりやアイロン、快適に眠るための工夫について、詳しく調べ、時間的な視点から道具がどのように変化してきたかを捉えられると考えた。また、全体で年表にまとめることで、道具の移り変わりによって人々の暮らしが変化してきたことに気付くことができるのではないかと考える。

○生活にかかわる道具を中心に学習する工夫

「つかむ」段階において、洗濯にかかわる道具や調理にかかわる道具を例に実際に使ってみることで、他の昔の道具についても疑問をもたせたり、人々の生活の変化について考えたりさせていく。

「調べる」段階では、洗濯板や七輪以外にもなるべく生活にかかわりのある道具の実体験を行わせたいと考え、アイロンやあんどん、かやについて当時と同じように、炭を入れたり火をともしたり、中に入ってみたりして、当時と同じ状況を体験できるようにする。そして、道具に込められた当時の人々の知恵や工夫を体験や調べ活動に基づいて実感的に考えられるようにする。

また、道具の体験の後に友達と感想を交流し合うことで、道具がそれぞれ工夫されていることを互いに共有し、当時の生活の様子を想像できるようにしていく。

さらに、千葉県立中央博物館大利根分館より借り受けた様々な生活の道具を実際に触ったり動かしたりしながら、昔の道具への関心を高めるようにする。

○「房総のむら」への見学を単元の途中に位置付ける工夫

学習の途中に「房総のむら」へ見学に行く。そこでは、農家の様子をただ見学するだけでなく、そこに置かれている昔の道具について館の方から実際に話を聞く。昔の道具についての知識をある程度得たうえで、使われた当時の場所で話を聞くことで児童はより当時の人々の生活の様子を思い浮かべながら、昔の暮らしについての理解が深まると考える。

研究内容2 「深い学び」に導く授業づくり

○昔の暮らしに直接触れることができる教材の用意

「つかむ」段階で、まず洗濯板や七輪の体験を行う。「つかむ」の洗濯板の体験活動を元に、昔の暮らしの様子について疑問をもたせる資料を提示し、地域の人々の生活の変化について意欲的に学習することができるようにする。次の「調べる」段階では、千葉県立中央博物館大利根分館より87点に及ぶ昔の道具を借り受け、空き教室を丸ごと「昔の道具博物館」として、児童に道具に直接触れながら、道具の工夫について調べることができるようにする。

様々な生活の道具を実際に触ったり動かしたりしながら、昔の道具への関心を高め、当時の生活の様子を想像できるようにしていく。そして、昔の道具に実際に触れることを通して、使っていた頃の人々の工夫や努力、知恵について気付けるようにする。

○使われた当時と同じ道具の体験

前述のように、千葉県立中央博物館大利根分館より様々な道具を借り受け、実際に触れる活動を行うが、博物館のものは実際に火をつけたり炭を入れたりすることはできないため、本当の意味で実際に体験することは難しい。そこで、洗濯板と七輪の体験の後に、当時と同じように使える道具（炭火アイロン・あんどん・かや）を用意し、児童に体験させる活動を行う。実際に使ってみることで、当時使っていた人々の思いを感じ取りやすくなり、道具に込められた工夫にやすくなるものと考ええる。

○道具についての情報を交流し合う場面の設定

道具についてただ触って調べるという体験にするのではなく、上述の3つの道具についてそれぞれ体験グループを作り、体験後に他のグループに情報を伝え、交流し合う活動を行う。そうすることで、児童は自分の選んだ道具について友達に紹介できるように熱心に工夫されていることを見つけ、また気付いたことの喜びや道具について感心したことを熱く友達に語ると考えられる。そして、児童が昔の道具のよさを感じ、児童によっては愛着を感じるのではないだろうか。また、友達からの体験談をもとに聞き手側の児童も実際に触れて確かめたいという気持ちが強くなり、より昔の道具への関心が高まり、次時の様々な道具に触れようという追求意欲が高まると考える。

○地域の人材の活用

いつも本校児童がお世話になっているセーフティーウォッチャーの方をゲストティーチャーとして招き、実際に昔の道具を使っていた体験を通して、昔の道具に込められた人々の生活への工夫や努力、苦心について話をさせていただくことで、児童が共感的に理解できると考える。また、より昔からの今へと続く道具の変化による生活の変化、地域の人々の思いや願いについて気付かせることを意図した。

8 本時の指導

(1) 本時の目標 (7/10)

- 昔の道具について調べたことを友達に伝え合うことで、昔の道具の工夫されているところや良さについて表現している。
(社会的な思考・判断・表現)

(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
1	1. 学習問題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">古い道具には、どんな工夫があるのだろう。</div>		
5	2. 同じ道具を体験したグループで集まり、前時に体験した道具についての発見カードをもとに、道具の工夫について気付いたことや体験した感想を交流し合う。 ・ 体験した道具の名前 ・ 使い方 ・ 工夫されていること ・ 使った感想	○次の活動では、他の道具を体験した友達に、自分たちの調べたことをわかりやすく伝えることを伝え、自信をもって行えるように、この時間で情報共有を十分に行うように声をかける。	発見カード
15	3. 他の道具を体験した友達に、前時に体験した道具についての発見カードをもとに、自分たちの調べた道具の工夫や体験した感想を伝え、道具についての情報を交流し合う。	○発見カードを参考に、道具の使い方、工夫、使った感想を、他のグループの友達にわかりやすく伝えられるように声をかける。 ○他のグループの体験を聞き、その道具を自分で確かめたくなくなった児童は、道具に触れて確かめて良いことを伝える。	発見カード

10	<p>4. 自分の体験や友達と情報交流したことをもとに、それぞれの道具のよさをノートにまとめる。</p> <p>それぞれの道具のよさを書いた短冊を黒板に挙げ、全体で共有する。</p> <p>炭火アイロン</p> <ul style="list-style-type: none"> 炭の熱でもあたたかくきちんとしわを伸ばせる工夫がある。 <p>あんどん</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気を使わなくても、明るくなるような工夫がある。 火が消えないように工夫されている。 <p>かや</p> <ul style="list-style-type: none"> 冷房がなくても、涼しくして寝られるように工夫されている。 	<p>○自分が体験した道具以外のものについても、友達から聞き取ったことを基に書くように伝える。</p> <p>○児童の数名に、短冊を渡し、黒板に張り全体に共有できるようにする。</p>	短冊
8	<p>5. 黒板にまとめられたそれぞれの道具のよさから、昔の道具についてどんな工夫があるかを、考え全体でまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気がなくても、便利に使える工夫がある。 どの道具にもそれぞれ工夫がある。 くらしを楽にするような工夫がある。 	<p>○それぞれの道具の特色を理解させるとともに、道具が便利で快適な生活を求めて工夫をされていることに気付かせる。</p> <p>○その道具がなかった時の生活の様子を想起して、考えている児童ができれば取り上げて、暮らしが向上していったことにも目を向けさせるようにする。</p> <p>◆体験したことや、友達からの話をもとに昔の道具についての工夫や優れているところについて考え、まとめている。(思考・判断・表現) (発言・ノート)</p>	
5	<p>6. 児童の意見をもとにまとめる。</p>		
1	<p>7. 次時の見通しを持つ。</p> <p>○次時は、もっとたくさんの道具が学校にあることを知らせ、ほかの道具についてはどうなのか、について調べていくことを伝える。</p>		
<p>古い道具には、くらしをよくするためのさまざまな工夫がある。</p>			